“みんなごと”のまちづくり推進事業

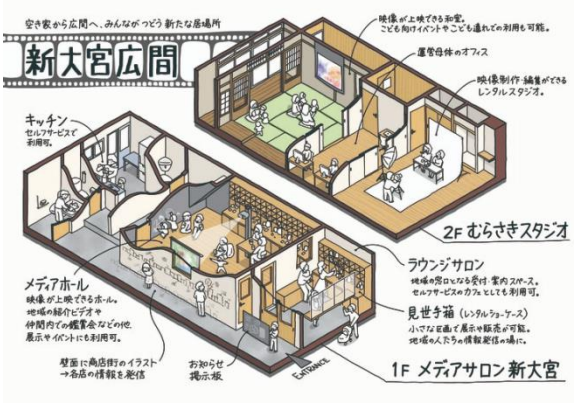
「まちづくり・お宝バンク」
市民協働推進コーディネーター報告

イラスト作者:鎌田リリアさん

2021年12月 Vol.19　　市民協働推進コーディネーター：日高由紀

クラウドファンディング達成しました！

お宝№299 有限会社キタ商事 取締役 荒川朋彦



2021年11月20日、新大宮広間がオープンしました。

9月にクラウドファンディングに挑戦され、目標よりも多くの協力を集められました。

返礼品として、1階メディアサロン・ホールに設置した「見世手箱」(レンタルショーケース)利用権を用意するなど、資金協力者がその後も一緒に場づくりに参画していく仕組みになっていました。オープニング日には、すでにショーケースに商品や作品が飾られているものもあり、ものづくりワークショップも開催されるなど、たくさんの人で賑わいをみせていました。

1階は、基本的に無料開放されているそうで、小さなお子さん連れの家族も気軽に過ごせるようなつくりになっていました。

見学者同士が近隣の名所・名店の紹介をし合いながらわいわい語らう様子を見て、「これからの商店街は、買い物をする場所だけではやっていけない。そこに行けば面白い人に出会えるような、人が集う居場所をつくりたい。」
と仰っていた荒川さんの言葉を思い出し、それが実現しつつあることを感じました。

↑1階:メディアサロン新大宮　ラウンジサロン
案内所のほか、セルフサービスカフェとしても利用できるそうです。通りを眺められるカウンターと椅子が設置されていました。

↑2階:和室
全ての部屋にスクリーン完備なので、どの部屋でも上映可能です。

そのまま生かした和室の欄間がレトロで素敵です。

↑2階:むらさきスタジオ。映像制作や編集ができるレンタルスタジオです。

←バリアフリーで入れる土間には、おむつ替えベッドも設置されています。

←1階:メディアホール
大きなスクリーンのある床暖房完備のあたたかな空間でした。仲間内での上映会やイベントスペースとしても使えます。

子ども食堂始まりました！

お宝№409　深草子ども食堂　**お宝№380　NPO法人えがおの家**

　まちづくり・お宝バンク提案者さん主催の子ども食堂が、伏見区と右京区でスタートしました。

◆子ども食堂でボランティアをしている大学生を中心に立ち上げ、今年7月にスタートした「深草子ども食堂」（伏見区）。代表の佐藤さんがボランティアをしながら運営のノウハウを学んでいたNPO法人ハピネスさんとのご縁で、「自分たちでも子供たちの居場所づくりをしたい！」という夢を子ども食堂という形で実現することができたそうです。コロナ禍で一時お弁当配布に切り替えられていましたが、イベント形式で親子そろって気軽に参加できる居場所づくりを目指し、活動を続けています。

◆2021年8月に、京北から龍安寺商店街「とんぼの家」に移転した、「NPO法人えがおの家」が、10月から「キッズキッチンえがおの家」（右京区）をスタートしました。
　初回は全員無料で多くの方にお越しいただき、スタッフのみなさんもひと安心だったそうです。まずは月に1回の開催を目指して頑張りたいとのことです。子育て中でちょっとお疲れの保護者さんの悩みを聞いてくださる専門員さんもいらっしゃいます。ホッとひと息つきたい方もぜひご利用ください。

深草子ども食堂

●開催日時：毎月第3日曜日
　　12：00～15：00
●料金：こども（中学生以下）無料、
　　大人300円
●場所：みんなのカフェ　ちいろば
　（京都市伏見区深草直違橋370）

キッズキッチンえがおの家

●開催日：月1回　土曜日
　　※開催日はブログをご確認ください
●時間帯：11：00～14：00
●料金：こども（小学生以下）100円　※未就学児無料
　　おとな（中学生以上）300円
●場所：龍安寺参道商店街「楽創」フリースペース
　（京都市右京区龍安寺五反田町14番地9）

「やさしい日本語」リーフレットが完成しました！

お宝№387「やさしい日本語」を広める会

　保育・幼児教育施設で仕事をされている方たち向けの「やさしい日本語」のリーフレット（Ａ４判　８頁）が完成しました。
　上京区まちづくり支援事業を活用して作られましたので、主に上京区の保育・幼児教育施設へお渡しして活用していただく予定です。
　外国人には「英語を使わなくては！」と思い込んでしまいがちですが、母国語が英語という方は実は少数派。施設へ通う保護者の中には、口語表現の日本語でのコミュニケーションをうまくできない方もいらっしゃいます。「やさしい日本語」を使った方が、伝わりやすいそうです。また、漢字にふりがなをうつなど、現場がコツを学び実践していただくことで、保護者が情報を取りこぼすことが防げるかもしれません。
　PDFでのお渡しもできるそうですので、「やさしい日本語」リーフレットをぜひご活用ください！

【お問合せ】「やさしい日本語」を広める会
hiromeru.yasanichi@gmail.com

「ツーリストシップ」を知っていますか？

お宝№384　一般社団法人CHIE-NO-WA

観光客と地域住民双方がお互いに寄り添い思いやりをもつことで、皆が楽しい観光地を築こうとする“ツーリストシップ”の普及を目的とする活動の輪が広がっています。

ツーリストシップの大切さをより多くの人に実感していただくために、ツーリストシップワークショップ開発をされてきた代表の福田さん。まずは子供たちの現場を知る先生方のご意見を伺う機会や実践先を増やしたい！と、まちづくり・お宝バンク提案者「NPO法人まなあそび」さんに協力いただき、子供たち向けのツーリストシップワークショップを開催しました。ディスカッションを通して、子供たちの優しいアイデアにたくさんの気づきをいただいたそうです。その他にも観光に携わる様々な現場での実践が続いています。

また、11月開催の「恩返しプロジェクト」報告会では、ダイドードリンコ株式会社さんとの連携で、ツーリストシップ自動販売機が設置されることも発表されました。さらに、報告会の会場「京都着物レンタル華手鞠」（東山区）の藤澤さんも以前からCHIE-NO-WAさんの活動支援者だそうで、今回の報告会でお会いしたご縁から、まちづくり・お宝バンクへ「車椅子や体が不自由な方も簡単に着物が着れるバリアフリー着物」のご提案をくださいました。

緊急事態宣言下のため、NPO法人まなあそびさんとのワークショップはオンラインで実施されました。

（左）ツーリストシップ啓発自動販売機は、くろちく祇園倭美坐（ぎおんわびざ）店前に設置されました。ツーリストシップブレスレットを販売する自動販売機は、錦市場商店街振興組合事務所前にも設置されています。

（画像右）「恩返しプロジェクト」報告会も、新型コロナ感染拡大防止のため、2部制で開催されました。入りきれずに座布団席が追加されました。
今後も、半年に一度のペースで開催していきたいとのことでした。

【障害者職場実習・チャレンジ雇用推進事業】

今回の報告書に掲載したイラストは、市民協働推進担当に実習生として2週間来てくださった、鎌田リリアさんが描いてくださいました！

京都市では、障害のある方に、就労体験を通じて将来の企業等への就職に向けたステップアップにしていただくとともに、広く企業や市民の皆様への障害者雇用に関する理解を広げるため、市役所の職場において職場実習やアルバイト雇用としてのチャレンジ雇用を実施しています。（お問合せ：保健福祉局障害保健福祉推進室）

鎌田さん自筆の似顔絵イラスト付きプロフィールに、「絵を描くことが趣味」と書かれていたので、殺風景な私の報告書にいろどりを添えていただくべく、鎌田さんにイラストを描いていただきました。 イラストのお題「12月」でお願いをしたところ、短時間でサラサラっとクリスマスの歓びに満ちたイラストを描いてくださいました！海外や日本の美術館巡りも好きとのこと、さすがです。

鎌田さん、かわいいイラストをどうもありがとうございました！